

〈幼稚園 環境〉

身近な自然に親しみ心豊かな子を育てるための
環境構成と援助の工夫

—砂や土とのかかわりを通して—



浦添市立浦城幼稚園

嘉数 照枝



目次

I	テーマ設定理由	1
II	目指す子ども像	1
III	研究の目標	1
IV	研究仮説	1
1	基本仮説	1
2	作業仮説	2
V	研究構想図	2
VI	研究内容	3
1	幼児期に育みたい豊かな心	3
2	幼児の主体的な活動を促す教師の役割	3
3	砂・土遊びについて	4
4	豊かな心を育むための環境と援助の工夫	5
5	砂や土に関する活動の年間指導計画	6
VII	保育実践	7
	検証保育の全体計画	7
	検証保育 実践事例1	8~10
	検証保育 実践事例2	11~16
VIII	研究の考察	17
1	作業仮説(1)の検証	17~19
2	作業仮説(2)の検証	19~20
3	作業仮説(3)の検証	20~21
IX	研究の成果と課題	22
1	成果	22
2	課題	22
	おわりに	22
	主な参考・引用文献	22



身近な自然に親しみ心豊かな子を育てるための環境構成と援助の工夫

— 砂や土とのかかわりを通して —

浦添市立浦城幼稚園 嘉数照枝

【要約】

本研究は、身近な自然である砂や土とのかかわりを通して、幼児が主体的に活動を展開し、感動体験や葛藤体験を重ねることによって、心豊かな子を育てることを目指し、年間指導計画作成や環境構成、援助の工夫を試みたものである。砂や土との直接体験活動を展開したことで、砂や土の感触を味わい、意欲的に活動するようになり、好奇心や探究心、他者受容や思いやりなど、豊かな心が育まれた。

キーワード

□ 豊かな心 □ 主体的 □ 年間指導計画 □ 環境構成 □ 教師の援助

I テーマ設定理由

近年、都市化や工業化が進み、環境破壊が世界でも大きな社会問題となっている。私たちの生活において、利便性を求めるあまり、身近な自然環境は失われつつある。幼児の遊びをみても、既製の遊具やテレビゲーム等、疑似体験や間接体験が多く、幼児が身近な自然と直接かかわる機会が減少しているように思われる。

幼児期における自然との直接体験は、自然に対する親しみや愛情などを育てるばかりでなく、科学的な見方や考え方の芽生えを培う上で基礎となるものである。

幼稚園教育要領「環境」の領域の中にも、「幼児期において自然のもつ意味は大きく、自然の大きさ、美しさ、不思議さなどに直接接触する体験を通して、幼児の心が安らぎ、豊かな感情、好奇心、思考力、表現力の基礎が培われることを踏まえ、幼児が自然とのかかわりを深めることができるように工夫すること。」と述べられている。

本園では、幼児が身近な自然にかかわることができるように、うさぎの飼育、栽培活動や収穫体験、オオゴマダラを観察したり、水や砂などに直接接触する遊びを活動の中に取り入れるなど、環境構成や援助の工夫を心がけている。

しかし、園で5月にカズラの植え付けを行った際、「汚いから嫌だ」「気持ち悪い」と、土に触るのを嫌がる幼児が半数以上であった。また、7月に本園の5歳児（1クラス）を対象に行った、幼児の遊びに関するアンケート調査結果によると、「降園後や休日は、主に室内で遊んでいる」が全体の約半数を占めていることもわかった。

幼児教育において砂や土とは、可塑性に富んだ素材であり、幼児に多くのことを学ばせてくれる環境である。しかし、私のこれまでの保育実践を振り返ってみると、幼児が主体的に砂や土とかわることができるような、計画的な環境構成や援助の工夫がなされていたらどうか、という反省点がある。

そこで、幼児が主体的に砂や土とかわることができるように、教師が計画的な環境構成や援助の工夫を行うことで、感動体験や葛藤体験を重ね、心豊かな子に育つのではないかと考え、本テーマを設定した。

II 目指す子ども像

身近な自然に親しみ、主体的に自然とかわって遊べる子。

III 研究の目標

豊かな心を育むために、砂や土に関する活動の年間指導計画を作成し、幼児が主体的に活動できるような環境構成や援助の工夫を図る。

IV 研究仮説

1 基本仮説

砂や土に関する活動の年間指導計画を作成し、幼児が主体的に活動できるような環境構成や援助の工夫を行うことで、心豊かな子が育つであろう。

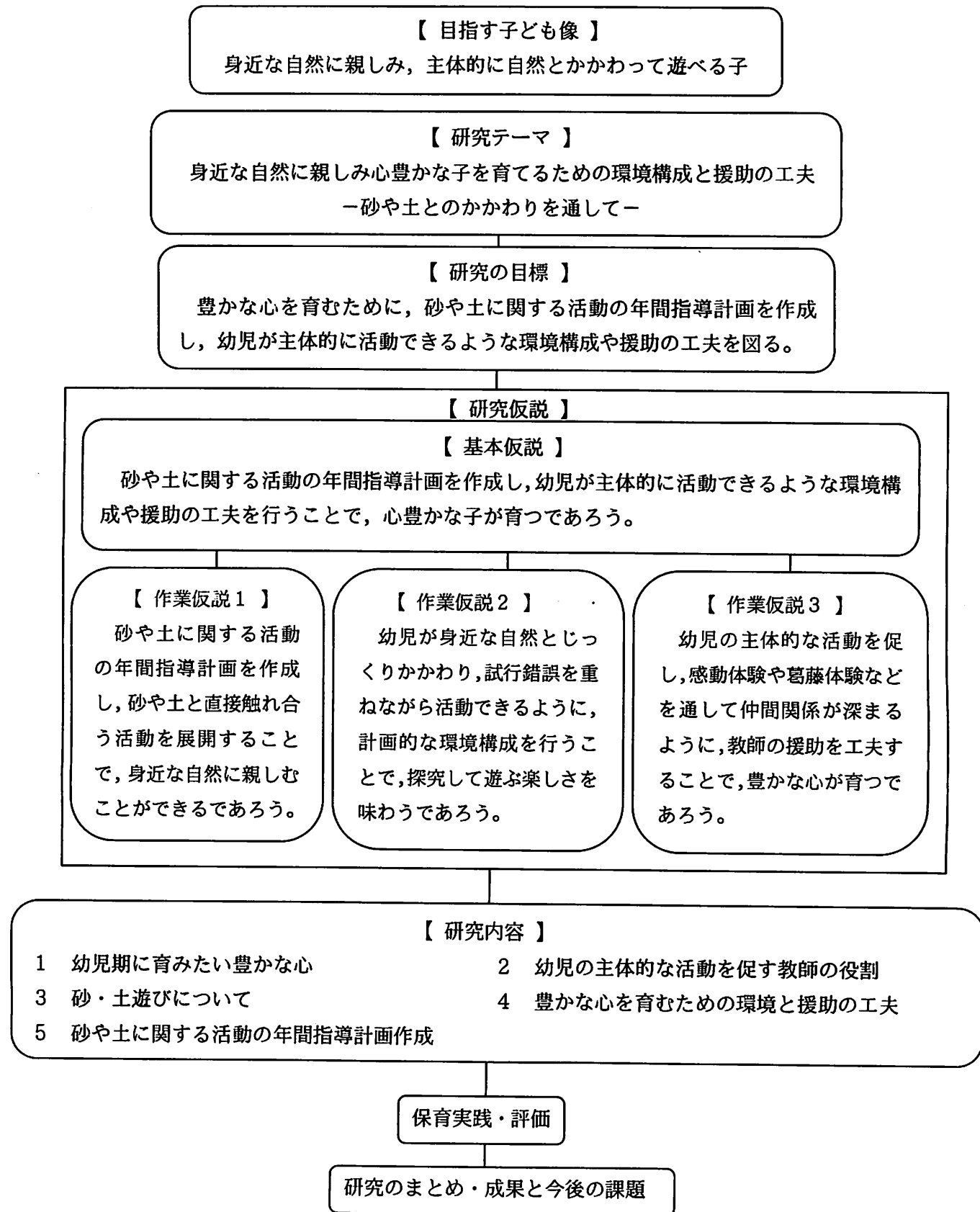
2 作業仮説

(1) 砂や土に関する活動の年間指導計画を作成し、砂や土と直接触れ合う活動を展開することで、身近な自然に親しむことができるであろう。

(2) 幼児が身近な自然とじっくりかかわり、試行錯誤を重ねながら活動できるように、計画的な環境構成を行うことで、探究して遊ぶ楽しさを味わうであろう。

(3) 幼児の主体的な活動を促し、感動体験や葛藤体験などを通して仲間関係が深まるように、教師の援助を工夫することで、豊かな心が育つであろう。

V 研究構想図



VI 研究内容

1 幼児期に育みたい豊かな心

(1) 心（こころ）とは

大辞泉によると、「人間の理性・知識・感情・意志などの働きのもとになるもの。また、働きそのものをひっくるめていう。精神。心情。

- ① 偽りや飾りのない本当の気持ち。
- ② 身についた感じ方や考え方の傾向。
- ③ 物事について考え、判断する働き。
- ④ 他人の状況を察していたわる気持ち。
- ⑤ あることをしようとする気持ち。
- ⑥ 物事に対する関心や興味。
- ⑦ 自分と異なるものを受け入れる余裕。
- ⑧ 物事の美しさやおもしろさのわかる感覚。
- ⑨ 覚えていること。
- ⑩ 気をつけること。」と記されている。

(2) 幼児期に育みたい豊かな心

幼児の身近な自然とのかかわりを通して、集中力、思考力、創意工夫、好奇心、探究心、問題解決能力、判断力、感じる心、自己表現力、自己統制力、他者理解、他者受容、満足感、協力、意欲、信頼感、充実感、達成感、やさしさ、思いやり、感謝の心、責任感、協調性など、豊かな心を育てていきたい。(図1)

豊かな心は、幼児が安心できる空間と時間の中で、主体的に環境にかかわり、直接的で具体的な体験を通して、育まれるものであると考える。

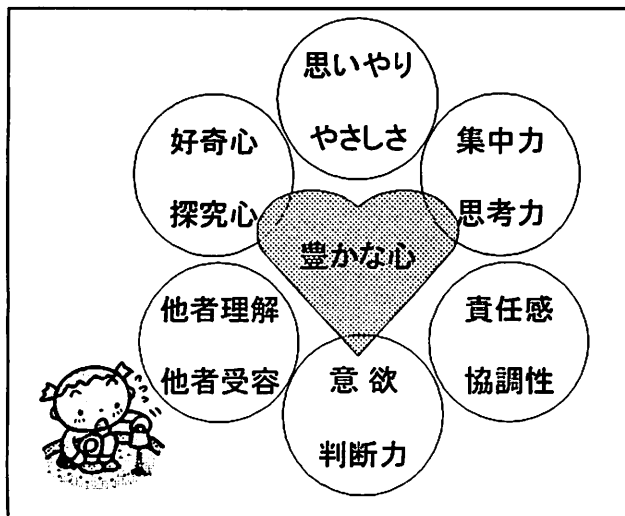


図1 幼児期に育みたい豊かな心

2 幼児の主体的な活動を促す教師の役割

幼稚園教育要領の「幼稚園教育の基本」の中で、「幼児は安定した情緒の下で自己を十分に発揮することにより発達に必要な体験を得ていくものであることを考慮して、幼児の主体的な活動を促し、幼児期にふさわしい生活が展開されるようにすること。」と述べられている。

幼児の主体的な活動とは、いろいろな活動を教師が計画した通りに、全て行わせるのではなく、幼児が興味や関心を持って意欲的に周囲の環境にかかわり、活動を展開していくことである。

そのために、教師は、幼児との信頼関係を十分に築き、日々の幼児の生活する姿をとらえて指導計画を作成することが大切である。また、幼児の活動の良き理解者となったり、遊びのモデルとなったり、幼児の遊びが深まっていなかったり、問題を抱えている時には援助を行うなど、状況に応じて援助をしていくことが必要である。

さらに、教師は環境の中に教育的価値を含ませ、幼児が自ら興味や関心をもってかかわり、試行錯誤をしながら、ふさわしいかかわり方を身につけていくことを意図した環境を構成していくことも重要である。(図2)

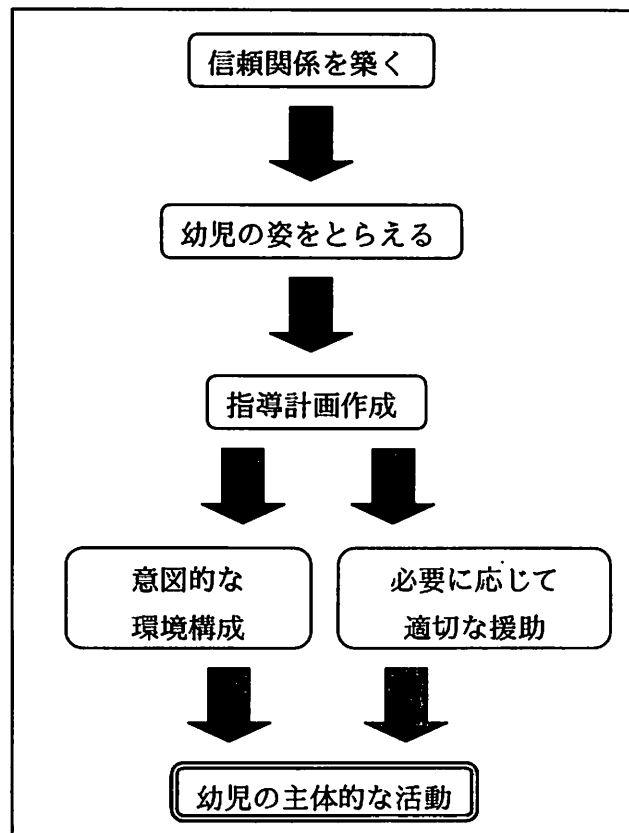


図2 幼児の主体的な活動を促す教師の役割

3 砂・土遊びについて

(1) 砂・土遊びの教育的意義

幼児は砂や土に直接触れ、感触を楽しみ解放感を味わうことで、情緒が安定する。また、自由に伸び伸びと表現する力や、友達と一緒に遊び、それを楽しみながら協力する態度、また、社会的態度を育てることができる。さらに、創意工夫する、計画を立てる、物の性質に気づいたりするといった思考の芽生えを育てる。以上のようなことが、砂・土遊びの教育的意義として挙げられる。(図3)

(2) 砂・土遊びによる幼児の育ち

幼児にとっての遊びは、心身共にふさわしい発達のために必要な経験である。砂・土遊びによる幼児の育ちについて、以下の4つの側面があげられる。

① 身体的側面

幼児は、砂・土遊びにおいて、つかむ、ちぎる、つつく、たたく、のぼす、まるめる、並べる、ころがす、つまあげる、まぜるなど、様々な動作をしながら遊ぶ。その過程で、骨格筋や手・指の技能が発達していく。

② 知的側面

幼児は主体的に砂や土とかかわることで、興味や関心が高まり、気づきや発見を通して、知識を広げていく。また、探究しながら砂や土の扱い方を学んでいく。さらに、砂や土と直接かかわることで、立体的・量的感覚も養われていく。

③ 情緒的側面

幼児は砂・土遊びの中で、気づきや発見を通して、探究して遊ぶ楽しさを味わうようになる。失敗してもあきらめずに試行錯誤したり、やり遂げた時の達成感など、様々な感情の体験を積み重ねる。そこで、感情のコントロールや、自分の気持ちの表現方法を学んでいく。

④ 社会的側面

幼児は砂・土遊びの中で、感動体験を共に味わったり、共通の目的を持ち協力して遊びを進めることで、仲間関係が広がっていく。また、友達と遊ぶ場所や道具をめぐるトラブル、考えや意見の違いなどを通して、我慢することや相手と協調すること、ルールを守ること、物の貸し借りや思いやりなどの、社会性を身につけていく。

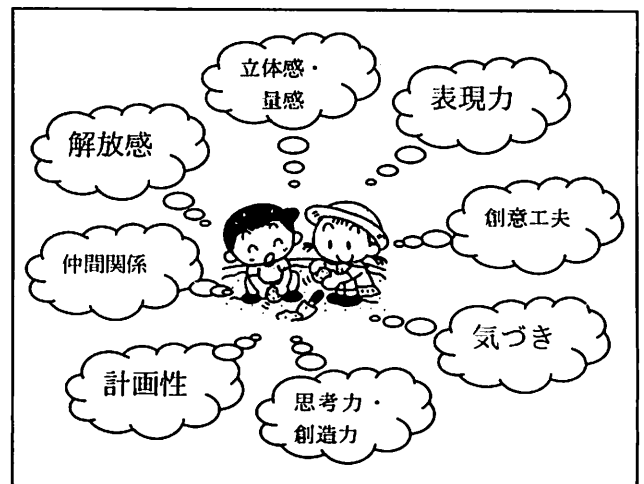


図3 砂・土遊びの教育的意義と幼児の育ち

(4) 衛生面についての配慮点

① 活動前

- ア 砂場の消毒（熱湯消毒、消毒薬、抗菌砂、加熱処理等で殺菌消毒）
- イ 事前指導（活動中に砂や土を口に入れない・指しゃぶりをしない・爪を短く切っておく）
- ウ 幼児の健康チェック（皮膚炎やアレルギー・風邪・傷や湿疹）
- エ 土遊びの場合は、三種混合ワクチン（DPT）の接種の確認

② 活動後

体を清潔にする（うがい・手（爪）足洗いの徹底）

4 豊かな心を育むための環境と援助の工夫

(1) 豊かな心を育むための環境

砂・土遊びを通して、豊かな心を育むために、次のようなことに配慮して、環境を構成していくことが大切であると考えられる。(図4)

- ① 幼児にとって魅力ある環境
 - ア 直接体験が多くもてるような環境を作る。
 - イ 幼児のイメージが実現できるように十分な水・砂・土を準備する。
 - ウ 幼児の動線に合わせて水・砂・土の環境を構成する。
 - エ 幼児が自分たちで清潔を保てるように環境を整える。
- ② 遊具・材料・素材
 - ア じっくり考えたり、試したりできるような、様々な種類の遊具や素材を準備する。
 - イ 必要な時、すぐに手にとって使ったりできるように、いつでも自由に扱えるような場所に置いておく。
 - ウ 遊具や材料などが不足すると、友達同士で一緒に使ったり、様々な物を代わりに使って済ませたり、他の物を使ってそれを作り出したりと、不足気味の方が工夫や創造を生むきっかけとなることもあるので、幼児の活動を見通しながら、状況に応じて出し入れできるように、準備しておく。
- ③ 教師や友達

教師や友達の動きやことばが興味をもつきっかけとなることも多い。周りで共に考えたり、感動を共有してくれる教師や友達は重要な環境のひとつである。
- ④ 教材

刺激を与える歌や本などの教材は幼児のイメージを育む。

(2) 豊かな心を育むための援助

必要に応じて適切な援助を行うことは教師の役割である。そこで、砂・土遊びを通して、豊かな心を育むための援助として、次のようなことが大切だと考える。(図4)

- ① 幼児理解

幼児が何に興味をもち、意欲的に取り組ん

でいるのか、何に行き詰まっているのかを捉え、幼児の生活や発達を見通して指導の計画を立てることが大切である。

- ② 場と時間を確保する

活動の中で、幼児の思いが十分に実現できるように、遊べる場と時間の確保をしてあげることが大切である。
- ③ ことばかけによる援助

幼児が感じたり、試したりしたことを教師が言葉にしたり、認めたりすることや、探究していることの意味や価値を伝えていくことが必要である。また、幼児の気づきを誘ったり、発想をゆり動かすようなことばかけも必要だと考える。
- ④ うなずきや表情による援助

表情や目というのは、ことば以上に心の声を発している。教師の受容的な笑顔や共感的なうなずき、温かいまなざしによる見守りが、心のよりどころとなり、幼児は安心して活動に取り組むことができる。
- ⑤ 手伝う・教える

幼児に任せる範囲、任せ方、任せられる場などを読みとり、必要に応じて手伝ったり、教えたりするなどの援助を行うことが大切である。
- ⑥ 保育者がモデルとなる

幼児は、教師の動きを敏感に感じとり、それを自分の中に取り入れていく。そのため、教師は幼児と一緒に活動しながら、砂や土のかかわり方を見せていくことが大切だと考える。

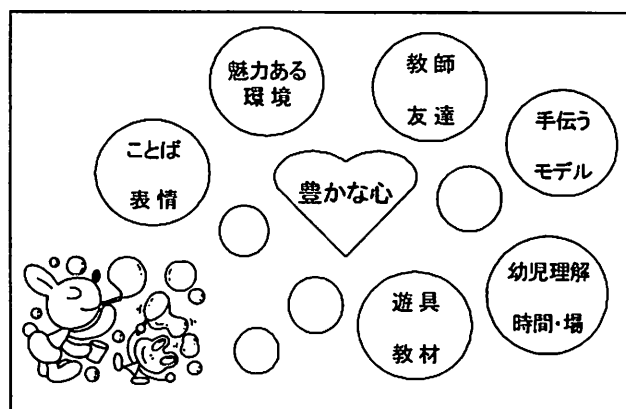


図4 豊かな心を育むための環境と援助の工夫

5 砂や土に関する活動の年間指導計画（2年保育5歳児）

期	I期（4月～5月）	II期（6月～7月）	III期（9月～10月）	IV期（11月～12月）	V期（1月～3月）
発達過程	○新しい環境に慣れ、友達関係を広げて自分から遊ぶようになる。	○いろいろな遊びを経験しながら、友達とのかかわりを広げていく。	○友達とかかわりながら、自分の考えを伝え合って、共に生活する楽しさを味わうようになる。	○自分の力を発揮しながら、友達と力を合わせて、色々な活動に取り組む。	○目的を持ち、その実現に向けて、意欲的に遊びをつくったり、生活を進めていくようになる。 ○入学への喜びや期待をもち、自分から進んで何でもしようとする。
ねらい	○砂や土の感触を味わう。 ○身近な砂や土に興味・関心をもつ。	○水・砂・土の性質に気づく。 ○山、池、川作りなどの遊びを通して、大きさ、高さ、深さ等を感覚的に味わう。	○砂や土の性質をいかして、様々な形をつくって遊ぶ楽しさを味わう。 ○教師や友達と一緒に共有・共感しながら、遊びを楽しむ。	○砂や土に加える水の分量により、砂や土の状態が変わることを知り、友達と一緒に工夫しながら遊びを進めていく。	○遊ぶ目的に応じて、道具の種類や数を自分なりに考えて、選んで遊ぶ。 ○試したり、工夫して遊びを進める中で、充実感や満足感を味わう。
び 土 遊 砂	○穴を掘る、山を作る ○ままごと、型押し	○トンネル、川作り等 ○雨降り後のどろんこ遊び	○たこ焼き、ハンバーグ、ジュース、クッキーなどを作って遊ぶ	○ケーキ作り ○泥団子作り、泥団子転がし	○土粘土での造形遊び ○陶芸やハンカチ染め
教材・教具	絵本 ○すなばのだいぼうけん ○どろだんご ○どろだんごつくろ ○11ぴきのねこどろんこ ○こぐまちゃんのどろあそび ○どろんこどろんちゃん ○どろんこだいすきモクモクだい！ ○光れ！泥団子 ○じめん ○どろんここふた ○どろんこハリー ○どろんこおおそうじ ○どろんこおばけ ○どろんこようちえん ○どろであそぼう ○どろんこ				
	道具 ○スコップ ○バケツ ○皿 ○コップ ○ペットボトル ○ふるい ○とい ○カップ ○なべ ○型抜き ○ボール				
◇ 環境 構成 ☆ 教師 の 援助	◇衛生面や安全面には十分に配慮する。 ☆幼児が砂や土の感触を十分に味わえるように、素手・素足で遊びを楽しむ。 ☆砂・土遊びの教育的意義等を保護者へ伝え、家庭と連携しながら、幼児が安心して遊べるように援助する。 ☆活動後の手（爪）・足洗いを丁寧に繰り返し指導する。	◇砂場の道具等は、種類や数、タイミングを考慮し、幼児が片付けやすいように表示する等の配慮をする。 ◇幼児の遊びの動線に合わせて、環境を再構成する。 ☆遊びの内容や必要に応じて、水の使用量を調節するとともに、節水の大切さも知らせていく。 ☆幼児の気づきや発見をことばにしていく。	◇幼児のイメージや工夫が活かされ、実現できるような素材や材料を準備する。 ◇違う種類の土を準備する。 ☆幼児の主体性が発揮できるように、活動の理解に努め、教師も一緒になって遊び共感したり、モデルとなったりしながら、必要に応じて援助をする。 ☆友達の工夫しているところなどを、みんなで共有・共感できる場を設ける。	◇幼児が試行錯誤できるように、大きさや形の違う様々な道具を準備する。 ◇幼児がじっくりと試したりできる場と時間を保証し、活動に合わせて、環境を再構成していく。 ☆泥団子作りに夢中になっている幼児には、絵本などを通してさらに好奇心を高める。 ☆幼児が疑問をもち、考えたり、工夫したりして遊ぶような声かけの工夫をする。	☆困難や課題に直面した時は、必要に応じて適切な援助をする。 ☆幼児が試したりしたことを言葉にしたり、探究していることの意味や価値を伝える。 ☆やり遂げた時の充実感や満足感を共感し、次の活動に意欲をもたせる。 ☆集団で共通のイメージを実現することができるように援助する。

VII 保育実践

1 検証保育の全体計画

検証保育の実践にあたり、下記のような全体計画を立てた。(全8回)

実践 No	月日	主題	題 材 名	ね ら い	活 動 内 容	仮 説
1	10/22	砂や土に触れよう	泥で描こう！	・泥に触れ、感触を味わう。	・手に泥をつけ、画用紙に表現する。	1
2	11/20		土山で遊ぼう！	・土とかかわって遊ぶ楽しさを味わう。	・土山で友達と一緒に伸び伸びと遊ぶ。	1 ・ 3
3	12/10	砂や土で工夫して遊ぼう	砂や土で何ができるかな？	・砂と土の性質の違いに気づく。 ・砂や土を使って、イメージを実現する楽しさを味わう。	・砂や土でいろいろなものをつくって遊ぶ。	2 ・ 3
4	12/11		泥団子を作ってみよう！	・試したり、工夫したりしながら遊ぶ楽しさを味わう。	・友達と一緒に泥団子作りを楽しむ。	2 ・ 3
5	12/12		泥団子を転がしてみよう！	・教師や友達と一緒に共有・共感しながら遊ぶ。 ・試したり、工夫したりして遊ぶ。	・泥団子を作ったり、転がして、試行錯誤を繰り返す。	2 ・ 3
6	12/14		いろいろな種類の土に触れてみよう！	・いろいろな土に触れ、違いに気づく。	・いろいろな種類の土とかかわって遊ぶ。	2 ・ 3
7	12/18		砂や土を使って、工夫して遊ぼう①	・砂や土の性質を利用して、工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。 ・教師や友達と一緒に共有・共感しながら、遊びを楽しむ。	・砂や土を使って、工夫して遊ぶ。	2 ・ 3
8	1/10		砂や土を使って、工夫して遊ぼう②	・砂や土を使って工夫して遊び、充実感を味わう。	・砂や土を使って、工夫して遊ぶ。	2 ・ 3

2 検証保育 実践事例1

(1) 主題名


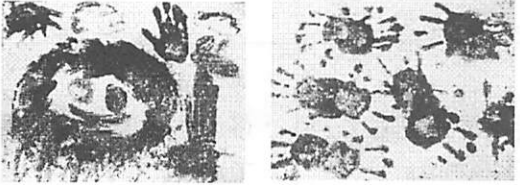
『砂や土に触れよう!』

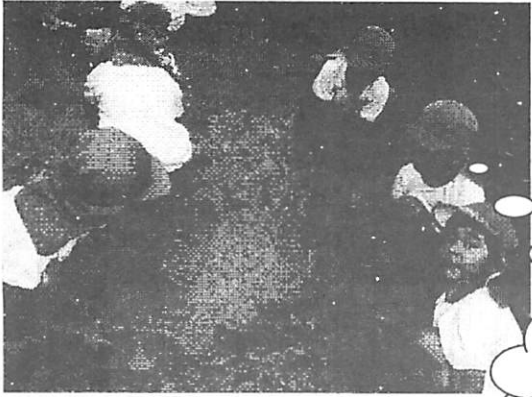

(2) 題材として取り上げた理由



砂や土などの可塑性に富んでいる素材は、幼児が繰り返しかかわることができ、幼児に多くのことを学ばせてくれる素材である。しかし、クラスの幼児の実態をみてみると、砂にかかわることは好むが、土にかかわることに抵抗を示す幼児が多く、個人差があることがわかった。砂や土との直接体験が多くもてるような活動を取り入れていく必要性を感じた。そこで、身近な自然である砂や土にかかわる活動を展開し、感触を味わうことで、幼児が砂や土に親しむことができるのではないかと考え、題材として取り上げた。

(3) 活動の展開

ねらい：砂や土の感触を味わい、身近な自然に親しむ。

	幼 児 の 姿	心の育ち	○環境構成 ☆教師の援助 教師の願い
泥で描こう (実践 N O . 1)	<p>【 「こわ〜い」→「気持ちいい〜♪」 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 泥を見ると、「こわ〜い」「気持ち悪い」といって、なかなか触ろうとしない子ども、教師や友達が楽しそうに活動しているのを見て、周りに刺激され触ってみようかな?と泥に触っていた。「先生、冷たくて気持ちいい〜♪」と泥に親しみ、楽しんで活動するようになった。 泥の感触を十分に味わいながら、意欲的に活動に取り組んでいた。(図5) 指や手のひらを使って描いていた。(図6)  <p>図5 泥で描いている様子</p>  <p>図6 幼児の作品</p>	興味 関心 意欲	<p>○友達と一緒に楽しみながら、泥の感触を味わえるように環境を整える。</p> <p>☆事前に教師が泥で描いた作品を見せ、活動に期待をもたせる。</p> <p>☆普段の遊びの様子から、一人一人の砂や土とのかかわりを把握し、個に応じた援助を行う。</p> <p>無理なく土とのかかわりをもたせていきたい。</p> <p>☆泥に触ることに抵抗がある幼児を温かく見守り、周りの教師や友達が楽しく活動している様子を伝えていく。</p> <p>☆泥の感触についての幼児の言葉を他の幼児にも伝えたりしながら、感触が十分に味わえるように援助する。</p> <p>泥の感触を味わわせたい。</p>

	幼 児 の 姿	心の育ち	○環境構成 ☆教師の援助 教師の願い
土 山 で 遊 ぼ う （ 実 践 N o ． 2 ）	<p>【 大きな土山だ！ 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 園庭に新しくできた大きな土山に気づいた幼児は、「先生、砂場の隣に赤い土の山があったよ!」「早く遊びたい!」と、待ちきれない様子だった。活動時には、ままごとや川作りなどをして楽しんでいた。(図7)  <p style="text-align: center;">図7 川作りの様子</p>	<p>興味</p> <p>関心</p> <p>意欲</p> <p>協力</p>	<p>○砂場の近くに新しく土山を作り、幼児が十分に砂や土とかかわることができるように、環境を構成する。</p> <p>☆砂や土で汚れることに抵抗を感じている幼児が安心して遊べるよう、足洗い場や手（爪）洗い場、衣服の洗濯コーナー等の環境を整え、活動後清潔にする指導を行う。</p> <p>☆新しくできた土山に親しむことができるよう、みんなで土山の名前を考える。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>土の感触を味わってほしい。</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px; display: inline-block;"> <p>もっと水を流そう!</p> </div>
	<p>【 身近な自然物を取り入れて① 石 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ペットボトルに赤土と水を混ぜると、「先生、オレンジジュースみたい!」と言って、オレンジジュース屋さんが始まった。教師がオレンジジュースを買いに行くと、(図8) <p>A子:「いらっしやいませ。氷も入れますか?」 教師:「えっ?氷もあるの?じゃあ、氷もお願いします。」</p> <p>教師が、氷?何だろう?と思っていると、別の容器に石を入れて準備されていて、石をコップに入れて氷入りのオレンジジュースを出してくれた。</p>  <p style="text-align: center;">図8 オレンジジュース屋さん</p>	<p>好奇心</p> <p>探究心</p> <p>思考力</p> <p>意欲</p> <p>創意工夫</p>	<div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>砂や土とかかわって遊ぶことの楽しさを味わってほしい。</p> </div> <p>○道具類は、種類・数を考慮し、配置するタイミングや幼児自身が片付けしやすいように表示する等の配慮をする。</p> <p>☆幼児が砂や土と十分にかかわることができるように、時間と場の確保をする。</p> <p>☆教師も一緒に遊びにかかわり、個々の遊びに取り組んでいる姿を認めていく。また、幼児の気づきや発見を見逃さないようにし、受容・共感していく。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; margin-top: 10px; display: inline-block;"> <p>いらっしやいませ 氷も入れますか?</p> </div>

	幼 児 の 姿	心の育ち	○環境構成 ☆教師の援助 教師の願い
土 山 で 遊 ぼ う （ 実 践 N o ・ 2 ）	<p>【 身近な自然物を取り入れて②バナナの葉 】</p> <p>・ B男が赤土で餅を作り、近くにあったバナナの葉にのせたことで、(図9)さらに、他の幼児も団子をのせたり、ハンバーグの具にしたりとバナナの葉が大変身した。</p>  <p style="text-align: center;">図9 バナナの葉に餅をのせている</p> <p>【 大発見!! 】</p> <p>・ オレンジジュース作りをしている途中……。</p> <p>C男:「先生、大発見!! 上と下の色が違う!」 教師:「すごい大発見だね! みんなにも見せて」 嬉しそうにペットボトルを周りの友達に見せるC男。数分後……。</p> <p>C男:「先生、またまた大発見だよ! 今度は、色が3つにわかれたよ!」(図10) みんなに見せながら発見を伝え、教師や友達と感動を共有した。</p>  <p style="text-align: center;">図10 水・砂・土の性質を発見</p>	<p>創意工夫</p> <p>探究心</p> <p>思考力</p> <hr/> <p>好奇心</p> <p>探究心</p> <p>思考力</p> <p>満足感</p>	<p>☆幼児の必要に応じて、砂や土だけでなく、身近な自然も遊びの中に取り入れることができるように、幼児に気づかせるような声かけをする。</p> <p>☆幼児の気づき等を認め、さらに遊びが発展するような声かけをしたり、他の幼児にも伝えていく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">身近な自然物も取り入れて、工夫して遊ばせたい。</div> <p>☆幼児の気づきや発見を言葉にし、感動を共有していく。</p> <p>☆自然の不思議さやおもしろさを伝えながら、水・砂・土の性質に気づかせていく。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 5px 0;">自然の不思議さ、おもしろさに気づかせ、好奇心や探究心を育ていきたい。</div> <p>☆活動の後に、今日の活動の中での発見や気づきを発表する場と時間を設け、自分の言葉で感動をみんなに伝えたり、他の幼児の発表を聞き、みんなで共有・共感することで、次の活動へ意欲をもたせる。</p>

【 考察 】

- はじめは、砂・土・泥に触ることに「気持ち悪いな」「触りたくないな」と抵抗を感じている幼児が十数名いた。しかし、教師や友達が楽しそうに活動している雰囲気を感じさせるよう援助を行ったことで、「楽しそうだな」「やってみようかな」と気持ちの変化がみられるようになり、「泥って、冷たくて気持ちいいね」と泥の感触を味わいながら意欲的に活動するようになった。
- 園庭の環境として砂場の近くに新しく土山を作ったことで、幼児の動線に合った水・砂・土を使

- った活動が展開しやすくなり、幼児が砂や土と十分かかわることができた。
- 砂や土との直接かかわる活動を展開したことで、砂や土の感触を十分に味わうことができた。また、砂や土に親しむようになり、普段の遊びにも積極的に取り入れて遊ぶようになった。
- 砂や土の汚れを気にする子やその他の衛生面に配慮して、足洗い場や手(爪)洗い場を整え、清潔にする指導を繰り返し行ったことで、安心して活動するようになった。

3 検証保育 実践事例2

(1) 主題名

『砂や土で工夫して遊ぼう！』

(2) 取り上げる題材名

『砂や土を使って、工夫して遊ぼう①』

(3) 主題設定の理由

【 5歳児の発達の特性 】

5歳児の発達の特徴として、生活の場の広がりや対人関係の広がりによって、様々な事物や活動に出会い、自分でよく見たり、取り扱ったりすることにより、「なぜ?」「どうして?」「不思議だな。」など、好奇心や探究心、興味や関心が高まったり広がったりしていくと言われている。また、用具や材料を目的によって使いわけたり、自分なりに試したり工夫したりしながら、遊びをすすめていくとも言われている。友達と共通の目的をもって遊びを楽しむようになる時期でもある。

以上のことから、5歳児にとって自然との直接的で具体的な体験は、好奇心や探究心を高め、豊かな心や思考力の基礎を培う上で大切であると考えられる。

【 クラスの幼児の姿 】

5月に行ったカズラの植え付けの時には、土に触るのを嫌がる幼児が半数以上であった。前述の幼児の普段の遊びを見ると、鬼ごっこや固定遊具での遊びが多く、砂や土に触れて遊ぶことは少ない。そこで、保育実践の中で、砂遊びや泥んこ遊びなど、砂や土に直接触れる機会を多く取り入れてきた。また、汚れることに嫌悪感をもつ幼児には、安心して遊べるように、自分で手足を清潔にできるような環境を作り、繰り返し指導を行ったり、学級通信を通して砂や土遊びに対する親への啓蒙を行った。すると、少しずつ土に触れることを嫌がる幼児は少なくなり、土に親しんで遊ぶようになってきた。

また、砂や土とのかかわる中で、砂や土の性質に気づいたり、性質の特徴を利用して遊んだり、試行錯誤しながら遊ぶ姿もみられるようになってきた。友達と協力したり、遊びの中で共感し合う姿も見られるようになってきた。

【 題材として取り上げた理由 】

砂・土は幼児にとって身近な自然である。また、可塑性に富んでいる素材で、日々繰り返しかわりながら、幼児に多くのことを学ばせてくれる環境である。ロバート・フルガム氏による「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」の著書の中にも、幼児期の砂場での体験が重要であったことについて述べられている。

水・砂・土は混ぜ合わせたりすると、いろいろな変化が見られ、幼児の好奇心や意欲を高めるのではないかと考える。また、一人で遊びを楽しんだり、友達と一緒に協力して遊びを進めたり、様々な遊び方を楽しめる。

そこで、幼児が主体的に砂や土とかわり、試行錯誤しながら遊びを楽しみ、感動体験や葛藤体験を味わうことができるように、教師が計画的な環境構成や必要に応じた援助を行うことで、豊かな心が育まれるのではないかと考え、題材として取り上げた。

(4) 本時のねらい

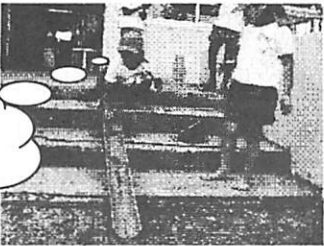

- ① 砂や土の性質を利用して、工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。
- ② 教師や友達と一緒に共有・共感しながら、遊びを楽しむ。

(5) 授業仮説

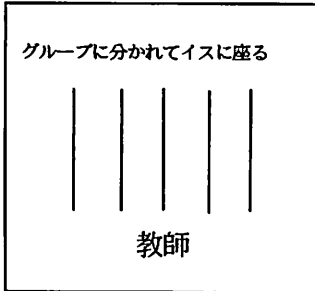
- ① 幼児が主体的に砂や土とかわることで、好奇心が高まり、探究しながら遊びを進めるであろう。
- ② 遊びの中での発見や感動を通して、友達と共有・共感しながら遊びを進めることで、仲間関係が育つであろう。


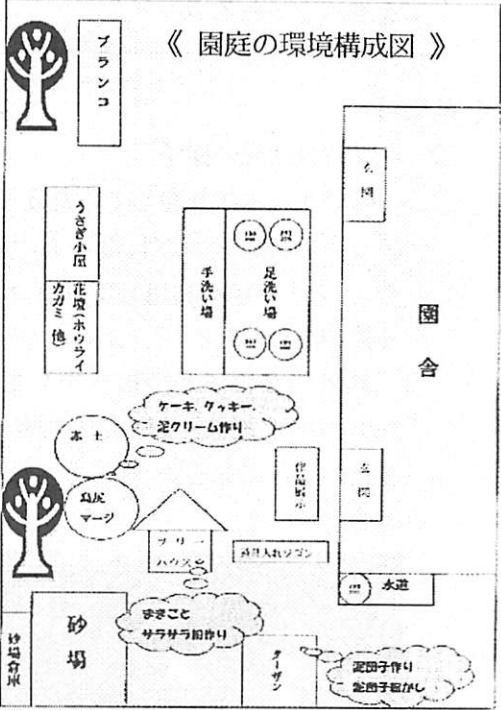
(6) 本時までの取り組み

	幼 児 の 姿	心の育ち	○環境構成 ☆教師の援助 教師の願い
砂や土で何が できるかな？ (実践N0・3)	<p>【 泥クリーム作り 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 国頭マージ（土）と水をボールに入れて混ぜているH子の姿がみられた。 <p>教師：「わあ～、気持ちよさそうだね！ちょっと、触ってみてもいい？」</p> <p>H子：「うん！とっても気持ちいいよ。これ泥クリームだよ。」</p> <p>教師：「どうやって作るの？」</p> <p>H子：「水をたくさん入れないとできないんだよ。あとで、ケーキの上に塗るんだよ。」</p> <p>水と土の分量を調節しながら、ちょうど良いやわらかさの泥クリームになるように、試行錯誤しながら作っていた。(図11)</p>  <p>図11 泥クリーム作りの様子</p>	意欲 探究心 思考力 満足感 達成感	<p>○道具類は、種類・数を考慮し、配置するタイミングや幼児自身が片付けしやすいように表示する等の配慮をする。</p> <p>☆幼児が砂や土と十分にかかわることができるように、時間と場の確保をする。</p> <p>☆教師も一緒に遊びにかかわり、個々の遊びに取り組んでいる姿を認めていく。</p> <p>☆幼児のイメージが実現できるように、必要に応じて援助する。</p> <p>☆幼児の気づきや発見を教師が言葉にし、さらに探究していくような言葉かけをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 水・砂・土の性質の違いやおもしろさに気づかせ、イメージを実現する楽しさを味わわせたい。 </div> <p>○幼児の活動にあわせて環境を再構成する。</p>
泥団子を作ってみよう (実践N0・4)	<p>【 泥団子も脱皮するんだね 】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動前に、絵本「どろだんご」の読み聞かせをすると、「今日は、泥団子を作って遊びたい！」と張り切っていた。園庭に出ると、絵本で見た、小さい泥団子や大きい泥団子、ピカピカ泥団子など思い思いに泥団子作りをしていた。すると、K男の泥団子の皮膜が剥がれた。(図12) これを見た周りの幼児は、 <p>「泥団子にも皮があるんだね」</p> <p>「泥団子も脱皮するんだね」</p> <p>と、泥団子に皮膜があることを発見した。</p>  <p>図12 泥団子の皮膜の発見</p>	意欲 集中力 発見 探究心 思考力	<p>☆絵本の読み聞かせを通して、幼児のイメージを膨らませ、活動に期待をもたせる。</p> <p>○幼児のイメージが実現できるような、材料や道具を準備する。</p> <p>☆個々の活動の様子を見守りながら、必要に応じて援助する。また、友達が手助けできそうなことは友達同士で教え合ったり、助け合えるようにしていく。</p> <p>☆教師も一緒に活動し、幼児の気づきや発見を受け止め、さらに好奇心や探究心が高まるような声かけをする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 幼児の発見を周りの友達にも伝え、感動を共有し合い、さらに好奇心や探究心を高めたい。 </div>

	幼 児 の 姿	心の育ち	○環境構成 ☆教師の援助 [教師の願い]
泥団子を転がしてみよう (実践 N O ・ 5)	<p>【 強い泥団子 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 泥団子作りが上手になってきて、友達同士でお互いの泥団子を触り合い、固さを確かめ合うようになった。そこで、絵本「どろだんご」にあった泥団子転がしを、数名の男の子がはじめた。(図 13) はじめは、何度もこわれたりしたが、何度も挑戦していくうちに、N 男の泥団子がこわれずに最後まで転がった。周りで見っていた子どもたちは、「すごい！N 男の泥団子は最強だな。」と N 男の泥団子を取り囲んだ。この泥団子はどこの土で作ったのか、小さいからこわれなかったのではないかなど、みんなで考えを出し合い、最強の泥団子作りがはじまった。  <p>最後まで、こわれなくて転がるかな</p> <p>図 13 泥団子を転がしている様子</p>	<p>意欲</p> <p>興味</p> <p>好奇心</p> <p>探究心</p> <p>思考力</p> <p>発見</p> <p>満足感</p> <p>達成感</p>	<p>○幼児の活動に合わせ、必要に応じてタイミングよく道具が使えるように準備しておく。</p> <p>☆幼児の工夫しているところや良さを認め、周りの友達にも伝えていく。</p> <p>☆幼児の興味や関心、疑問などを逃さずに、教師がことばにし、一緒になって考えながら、探究しながら活動が進められるようにする。</p> <p>☆試行錯誤している姿を認め、うまくいった時には、教師も一緒に感動を共感し、満足感や達成感を味わえるように援助する。</p> <p>[友達の探究している姿を周りの幼児にも伝え、友達同士で試行錯誤しながら活動させたい。]</p>
いろいろな種類の土に触れてみよう (実践 N O ・ 6)	<p>【 魔法の土だね 】</p> <ul style="list-style-type: none"> 島尻マージ (土) が新しく国頭マージ (土) の隣に準備されたことを幼児に伝え、早速、島尻マージ (土) に触れて遊んでいた。「色が違う」「粘土みたい」と国頭マージ (土) との違いに気づき、興味を示していた。島尻マージ (土) で泥団子作りをした S 男は、M 男：「先生、国頭マージ (土) で作った泥団子は、落としたり粉々になるけど、島尻マージ (土) で作った泥団子は落としたり、2つにわれたよ。魔法の土だね。」(図 14)  <p>島尻マージは魔法の土だね！</p> <p>図 14 泥団子が2つにわれた</p> <p>教師：「本当だ。島尻マージで作った泥団子はこわれにくいんだね。みんなにも教えてあげよう！？」</p> <p>M 男はその後、試行錯誤しながら、砂を混ぜずに、水と土 (島尻マージ) だけで泥団子を作り、地面に投げつけても形は変わるが、壊れない泥団子を完成させた。</p>	<p>意欲</p> <p>興味</p> <p>発見</p> <p>好奇心</p> <p>探究心</p> <p>思考力</p> <p>達成感</p>	<p>○国頭マージ (土) の隣に島尻マージ (土) を準備する。</p> <p>☆教師も一緒に 2 種類の土に触れながら、幼児の気づきに共感する。</p> <p>☆新しい土を使って、探究している幼児の姿を周りの幼児へ伝えていく。</p> <p>○幼児の活動に合わせて、必要な材料・用具を準備し、環境を再構成する。</p> <p>[幼児の発見を周りの友達にも伝え、感動を共有し合い、さらに好奇心や探究心を高めたい。]</p> <p>☆幼児の探究している姿を見守りながら、必要に応じて援助する。</p> <p>☆幼児の工夫しているところや探究していることを認め、達成感や満足感が味わえるようにする。</p>

(7) 検証保育指導案

日時	平成19年12月18日(火) 9:00~10:30		
対象	はな組(5歳児) 男児15名 女児15名 計30名	主題	砂や土を使って工夫して遊ぼう① (実践 No.7)
ねらい	<p>○砂や土の性質を利用して、工夫しながら遊ぶ楽しさを味わう。</p> <p>○教師や友達と一緒に共有・共感しながら、遊びを楽しむ。</p>		
授業仮説	<p>○幼児が主体的に砂や土とかかわることで、好奇心が高まり、探究しながら遊びを進めるであろう。</p> <p>○遊びの中での発見や感動を通して、友達と共有・共感しながら遊びを進めることで、仲間関係が育つであろう。</p>		
前日までの幼児の姿	<p>砂や土との直接体験を活動の中に多く取り入れたことで、砂や土の感触を十分に味わい親しむようになった。砂や土を使って、自分のイメージを実現したり、工夫して遊ぶ楽しさを味わっている姿が見られる。また、砂や土の性質の違いなどに気づき、性質を利用して遊ぶ姿も見られる。さらに、友達と協力したり、共感し合いながら遊ぶ姿も見られる。</p>		
時間	活動の流れ	○環境構成	☆教師の援助
9:00	<p>○集まる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに座る ・教師の話聞く ・今日の活動について話し合う <p>《環境設定》</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p style="text-align: center;">グループに分かれてイスに座る</p>  <p style="text-align: center;">教師</p> </div>	<p>○環境構成</p>	<p>☆教師の援助</p> <p>☆前回の砂や土遊びを振り返りながら、子どもたちのイメージを膨らませ、今日の活動に期待を持たせる。</p> <p>☆今日の活動の手順について話をする。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>《手順》</p> <ol style="list-style-type: none"> ①砂や土とかかわって遊ぶ ②片付けをする ③手足をきれいに洗って教室へ入る ④みんなで集まって、今日の感想などを話し合う </div>
9:10	<p>○園庭に移動する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帽子をかぶる ・トイレに行く ・草履に履きかえる ・道具や足洗い場の準備をする 	<p>○環境構成</p>	<p>☆教師の援助</p> <p>☆トイレに行き、帽子をかぶるよう声かけをする。</p> <p>☆幼児と一緒に道具の準備をしたり、足洗い場の環境を整える。</p> <p>○トライに水をため、遊びに使いやすいように準備する。</p>

時間	活動の流れ	○環境構成 ☆教師の援助
<p>9:15</p> <p>○砂や土とかかわって遊ぶ</p> <p>《 予想される活動 》</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・泥団子作り ・ケーキ作り ・クッキー作り ・ままごと ・泥クリーム作り ・泥団子転がし ・サラサラ粉作り </div> <p>※水・砂・土を混ぜ、友達と一緒に試行錯誤しながら、クッキーの型抜きをしている(図15)</p>  <p>図15 試行錯誤しながら型抜きをしている様子</p> <p>10:00</p> <p>○片付けをする</p> <p>10:10</p> <p>○手足を洗う</p> <p>○教室に入る</p> <p>10:25</p> <p>○今日の活動の感想について話し合う</p>	<p>○環境構成 ☆教師の援助</p> <p>○道具を種類別に分かりやすく表示し、ワゴンに入れて準備する。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px;"> <p>《準備するもの》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バケツ ・ボール ・ふるい ・皿 ・スーパーの袋 ・型抜き ・ストッキング ・じょうろ ・ビニール袋 ・コップ ・タライ ・カップ ・槌 </div>  <p>《 園庭の環境構成図 》</p> <p>☆「どうやったらツルツルの泥団子ができるのかな？」など、幼児から出てくる疑問について、一緒に考えたり、幼児から解決策が出るように援助する。</p> <p>☆困難や課題に直面した時は、必要に応じて適切な援助をする。</p> <p>☆試したり、工夫して遊ぶ姿を認め、教師や友達と共感しながら、遊べるように援助する。</p> <p>☆幼児が試したり、工夫して遊んでいる様子をことばにし、他の幼児にも伝える。</p> <p>○幼児の遊びに合わせて、環境を再構成する。</p> <p>☆幼児の様子を見て、砂や土遊びに取り組めない幼児には、個別にかかわり、その思いを受け止めながら、砂や土遊びのいろいろな遊び方や楽しさを味わうことができるように援助する。</p> <p>☆道具の種類や表示を見ながら、片付けるように声かけをする。</p> <p>☆手足をきれいに洗うように声かけする。</p> <p>☆幼児一人一人が、遊びの中で工夫していたことなど、良さを認めて、伝え合う。</p> <p>☆今日の活動での発見や感動をみんなで話し合うことで、次の活動への期待と意欲を高める。</p>	
<p>評価の視点</p>	<p>○幼児が主体的に砂や土とかかわって遊んでいたか。</p> <p>○試したり、工夫したりしながら活動していたか。</p> <p>○教師や友達と共感しながら遊んでいたか。</p> <p>○教師は、幼児の好奇心や探求心を育むような援助を行っていたか。</p>	

4 授業仮説の検証

(1) 授業仮説①の検証

幼児が主体的に砂や土とかかわることで、好奇心が高まり、探究しながら遊びを進めるであろう。

【結果】

① 活動時の幼児の様子

- 砂でかき氷作りをしていたS子は、身近にあるものでシロップになるものはないかと考え、赤土の色を利用してシロップに見立てる姿がみられた。
- 数名の女の子が型抜きをしていた。(図16) 直接手で水・砂・土を混ぜ合わせ、丁度良い堅さになるように、考えながら分量を調節していた。



図16 試行錯誤しながら型抜きをしている様子

② 幼児の発言・つぶやき

- ・「小さい星型の型抜きは難しいな。」
- ・「土をもっと入れた方がいいよ！」
- ・「こっちの土の方がサラサラだよ！」
- ・「ぼくの泥団子は小さいからよく転がるんだよ！」
- ・「水も混ぜないとくずれるよ！」



【考察】

幼児が主体的に砂や土とかかわることができるように、環境構成や援助の工夫を行ったことで、幼児は主体的に砂や土とかかわるようになったと考える。また、イメージを広げ、そのイメージを砂や土を使って実現しようと、試行錯誤する過程で、好奇心が高まり、探究しながら遊びを進めることができたのではないかと考える。

(2) 授業仮説②の検証

遊びの中での発見や感動を通して、友達と共有・共感しながら遊びを進めることで、仲間関係が育つであろう。

【結果】

① 活動時の幼児の様子

- 前日が雨天だったため、泥団子作りをしている幼児が、いつもサラサラ粉をかけている地面は湿っていた。しかし、遊具の下の雨に濡れていない所を見つけた幼児が、「サラサラ粉が濡れていない所見つけた！」と友達に教え、「どこどこ？本当だ！」「サラサラ粉かけたい人こっちだよ。」と発見した場所を友達同士で共有して遊ぶ姿がみられた。
- 土山が湿っていたため、裸足で歩くとツルツル滑ることに気づいたT子。さらに、水をかけたことで、土山滑りへと遊びが発展した。「すごい発見したよ！水をかけて滑り台を作ったよ！」と周りの友達にも知らせていた。周りの友達も「すごい！おもしろい！」「よく滑る！」と、T子の発見に共感しながら、遊びを楽しんでいた。(図17)



図17 土山が滑り台になることを発見

② 幼児の発言・つぶやき

- ・「サラサラ粉があるところ発見したよ」
- ・「K子の考えた土の滑り台おもしろいね！」



【考察】

- 砂や土とのかかわりを通して、友達と同じ感動を味わったり、共通の目的に向かって協力して取り組んだりする姿や、友達との共感や受容している発言などから、仲間関係に育ちがみられたと思われる。

VIII 研究の考察

1 作業仮説(1)の検証

砂や土に関する活動の年間指導計画を作成し、砂や土と直接触れ合う活動を展開することで、身近な自然に親しむことができるであろう。

(1) 手立て

検証前のアンケート調査の結果から、「降園後や休日は主に室内で遊ぶ」が54%と、家庭において自然との直接体験が少ないことが伺えた。また、5月に行ったカズラの植え付けの際、「汚いから嫌だ」「気持ち悪い」と、土に触るのを嫌がる幼児が半数以上であった。そこで、

- ① 砂や土に関する年間指導計画を作成した。
- ② 砂場の近くに土山を作り、砂や土と直接触れ合う活動を展開した。(図18)

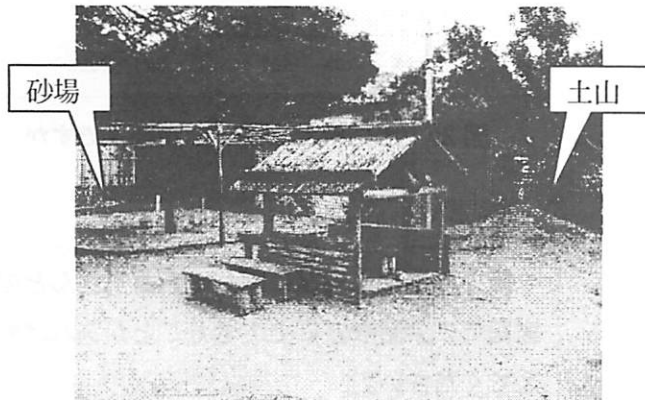


図18 幼児の動線に配慮した砂・土遊びの環境

- ③ 砂・土遊びの活動後、体を清潔に保つことで、汚れに嫌悪感をもつ幼児が安心して活動できるように、自分たちで清潔にできる環境を整え、繰り返し指導を行った。また、清潔になったか確認し、必要に応じて援助を行った。

ア 手洗い

砂や土に直接手で触れて活動していると、爪の中まで砂や土が入り込むことがある。そこで、爪の中まで清潔にできるよう、爪ブラシを準備し、手洗い場の蛇口の石鹸の隣に紐で結び、幼児が使いやすいよう環境を整えた。(図19)

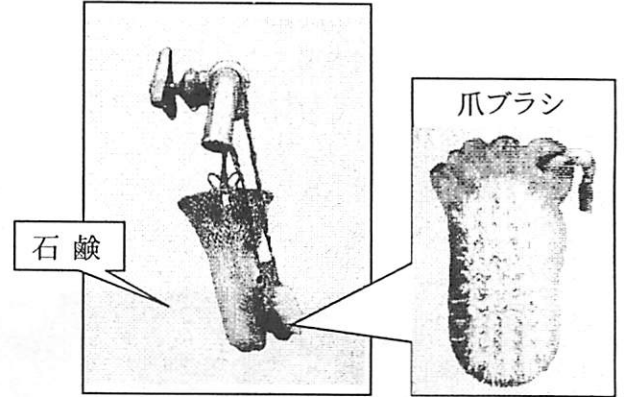


図19 爪の中まで清潔にできる手洗い場の環境

イ 足洗い

活動後、幼児が自分たちで進んで足を清潔にできるように、足を洗う順番をタライに記した。(図20)

さらに、『あしのあらいかた』についての表示を分かりやすく写真入りで作成し、足洗い場の近くに掲示した。(図21)

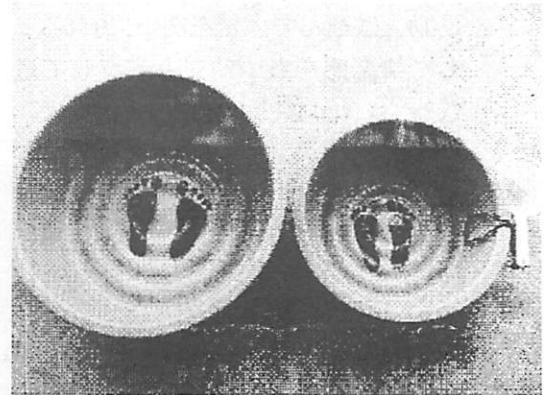


図20 足を洗う順番を記したタライ

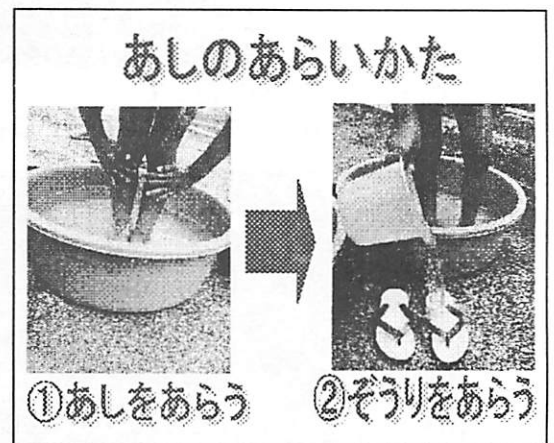


図21 写真入りで表示した『足の洗い方』

- ④ 砂・土遊びの教育的意義や遊びの様子を学級通信を通して保護者に伝えた。

(2) 結果

① 実践事例1 (実践No.1~2) より

- 砂や土に触れることに抵抗がある幼児には、無理なくかかわることができるように、少しずつかかわらせ、幼児が興味をもつような活動を展開することで、砂や土の感触を味わいながら、楽しんで活動することができた。(図 22)



図 22 土の感触を味わっている様子

- 幼児が進んで清潔に保つことができるように、環境を整え繰り返し指導をしたことで、活動後は進んで手足を洗い、汚れることに対して嫌悪感をもつ幼児も安心して遊ぶようになった。(図 23.図 24)



図 23 爪ブラシを使って
爪の中まで清潔にしている様子



図 24 自分たちで進んで足を清潔にしている様子

○ 幼児の発言・つぶやき

- ・「冷たくてやわらかくて気持ちいい！」
- ・「もっと大きな穴を作ろう！」
- ・「爪の中もきれいになったよ！」



- ② 検証保育前後の幼児への聞き取り調査より
クラスの幼児30名への聞き取り調査で、「土に触れて遊ぶのが好きですか」の質問に対して、検証前(5月)は、「好き」と「嫌い」がそれぞれ50%ずつであったが、検証後(1月)は「好き」が100%という結果になった。(図 25)

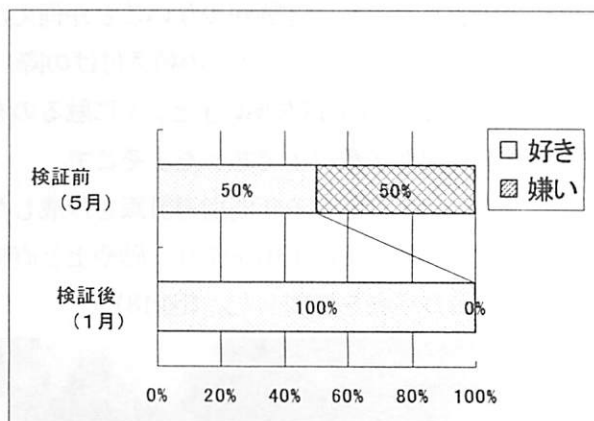


図 25 土に触れて遊ぶのが好きですか

③ 検証後の保護者の声より

園での砂や土遊びに関して、お子さんとの家庭での会話などにでてきたことがあれば教えてください。

- 砂、泥、土、水あそびが大好きで、させたい遊びでしたが、公園等は衛生面で不安があり、園でたくさん出来て、本当に感謝しています。「今日ね、土のお山作ったんだよ」「新しい土がきたんだよ」「泥団子は〇〇にかくしてあるんだ～」と、楽しそうに目を輝かして報告してくれます。
- 「泥団子作りの何が好き？」と聞くと、「キラキラするまでキレイに作るころ」と答えていました。以前から、外遊びの好きな子どもでしたが、遊具だけではなく自然の物と触れて遊ぶ楽しさも感じているようです。

(3) 考察

- 砂や土に関する年間指導計画作成を行い、砂や土と直接触れ合う活動を展開し、抵抗感のある幼児には無理なくかかわらせていった。その結果、意欲的に活動している姿が見られ、砂や土の感触を味わっている発言も聞かれるようになってきた。また、幼児が家庭に帰ってからも砂や土遊びの楽しさを伝えていることが保護者の声から分かることから、幼児が砂や土に親しむようになったのではないかと思われる。
- 学級通信を通して保護者に理解や協力を求めたり、自分たちで手足を清潔に保てるように、環境を整え繰り返し指導を行ったことで、安心して砂や土とかかわるようになり、親しむようになったと考える。

2 作業仮説(2)の検証

幼児が身近な自然とじっくりかかわり、試行錯誤を重ねながら活動できるように、計画的な環境構成を行うことで、探究して遊ぶ楽しさを味わうであろう。

(1) 手立て

- ① 幼児の生活や発達を見通して、試行錯誤できるような、教材・素材を準備し、計画的な環境構成を行った。また、幼児の活動に応じて再構成した。

ア 土の種類

違う種類の土に触れ、発見や気づきを通して、遊びが深まっていくように、沖縄県の代表的な国頭マージ(土)と島尻マージ(土)の2種類を準備した。

イ 教材

思考力が深まるように、同じ道具でも大きさや形の違うものを数種類準備した。(図26)

ウ 表示

幼児が興味を示した絵本の一部をわかりやすく構成し、玄関前に表示して、園庭で遊びながら、見ることができるように掲示した。(図27)

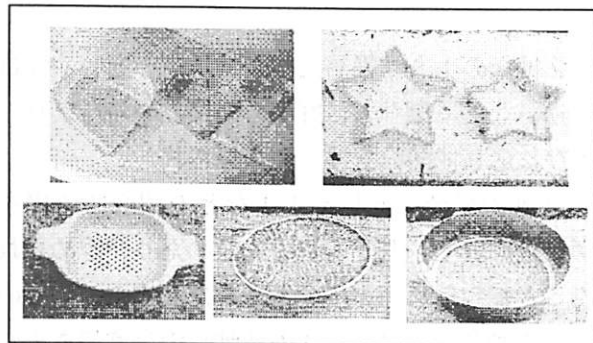


図26 大きさや形の違う道具



図27 『☆めざせ☆どろだんごめいじん』の表示

- ② 活動の最後に、発見や気づき、工夫しているところなどをみんなで共感・共有できる場を設けた。

(2) 結果

- ① 実践事例2(実践No.3~8)より

- 同じ道具でも数種類準備したことで、いろいろな道具を使って違いを確かめたり、自分の目的に合わせて考え、選んで使う姿が見られた。(図28)

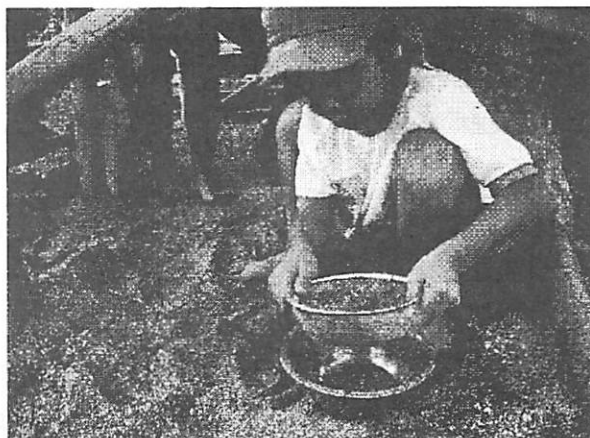


図28 サラサラ粉作りをしている様子 19

- 2種類の土を準備したことで、色の違いや性質の違いなどに気づき、好奇心や探究心が深まり、遊びに応じて使い分ける姿が見られた。
- 活動の最後に発見や工夫などを紹介する場を設けたことで、友達の良さを認めたり、認められたことで自信を持つ姿がみられた。また、周りの友達の刺激を受けて、次の活動への意欲やさらに探究しようとする姿がみられた。
- トイを使った泥団子転がしは、最初は一つの樋だけ使って転がしていたが、「もう一つ繋げてみる？」とさらに遊びが発展するよう援助すると、友達同士試行錯誤しながら、場所を変えたり、樋の数や組み合わせ方を工夫し、遊びが発展した。
(図2)

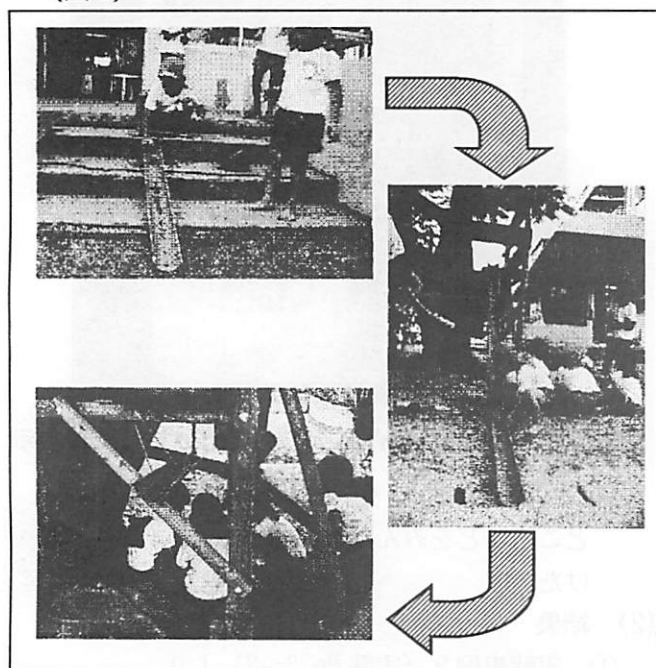


図29 トイを使った泥団子転がし遊びの発展

- 絵本の一部を構成して『めざせ！どろだんごめいじん』と表示したことで、「ツルツル泥団子を作りたい」「はかせの泥団子になってきたみたい」と、探究しながら泥団子作りをし、出来上がった自分の泥団子と表示を見ながら、達成感を味わったり、さらに意欲が高まっている姿がみられた。
- 幼児の発言・つぶやき

・「島尻マージで作った泥団子の方が強いよ！」
 ・「小さい星型の型抜きは難しいよ！」
 ・「星型クッキー大成功！」
 ・「はかせの泥団子になってきたみたい。」
 ・「もう少し水を入れてみよう！」



(3) 考察

- 試行錯誤しながら活動できるように、土を2種類準備したり、数種類の道具を準備したことで、思考しながら活動する姿が見られた。また、活動の最後に発見や気づきなどを、共有・共感できるよう場を設け、援助を行ったことで、次の活動への意欲が高まり、友達の気づきや工夫を取り入れ、さらに探究しながら遊びを深めていく発言や姿も見られた。これらのことから、意欲や思考力、好奇心や探究心などの、豊かな心が育まれたと考える。
- 絵本の一部を構成した表示は、一部の幼児の好奇心や意欲を高める手だてにはなったが、幼児によって効果に差があったので、幼児の実態に合わせた工夫が必要であったと考える。

3 作業仮説(3)の検証

幼児が主体的に活動を展開し、感動体験や葛藤体験などを通して仲間関係が深まるように、教師の援助を工夫することで、豊かな心が育つであろう。

(1) 手立て

- ① 幼児が主体的に活動できるように、道具を分類してわかりやすく表示し、自分たちで準備したり、片付けができるように、援助した。
(図30)

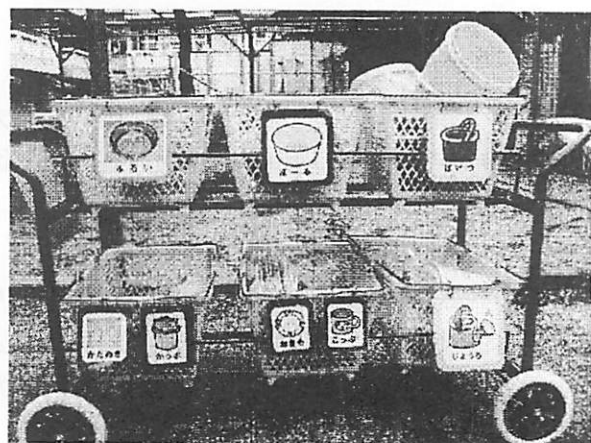


図30 道具の分類をわかりやすく表示

- ② 友達同士、道具を一緒に使ったり、貸し借りできるように、必要に応じて道具の数を調整した。
- ③ 型抜きや泥団子、ケーキなど作った後に友達同士で良さを認め合うことができるように、展示コーナーを設定した。(図 31)



図 31 展示コーナー

- ④ 感動体験や葛藤体験を通して、仲間関係が深まるように、友達の気づきや工夫しているところを周りの幼児に伝えたり、友達同士協力したり、助け合って遊びが進められるような、援助を行った。

(2) 結果

- ① 実践事例 2 (実践 NO.3~8) より
 - 道具の種類や数を調整したことで、友達同士で一緒に使ったり、貸し借りし合う姿がみられた。
 - 教師が友達の良さを周りの幼児に伝えたり、展示コーナーを設定したことで、友達の良さを認めたり、教え合う姿がみられるようになってきた。(図 32)



図 32 水・砂・の土丁度いい分量を教え合う様子

- 展示コーナーを設定したことで、自分の良さや友達の良さに気づき認め合う姿や、友達の作ったものも大切に扱おうとする姿がみられた。(図 30)

- 「こっちの砂はサラサラだよ」「ピカピカの泥団子ができたよ」「一緒に水を運ぼう」など、発見や感動体験、共通の目的をもって活動することを通して、普段はあまりかかわらない幼児が一緒になって感動を味わいながら遊んだり、協力して遊ぶ姿が見られた。(図 33)

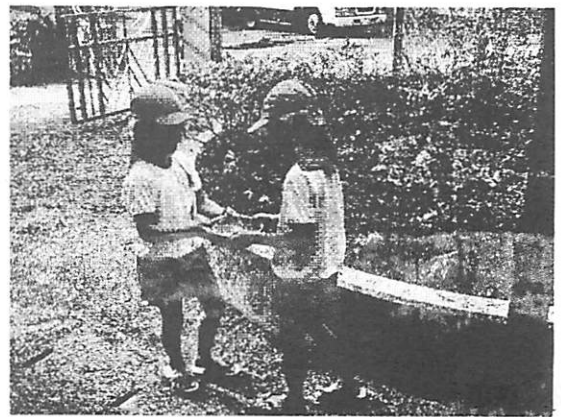



図 33 友達と協力して水を運んでいる様子

- 幼児の発言・つぶやき

- ・「おわったら貸してね！」
- ・「S男の泥団子固いよ！」
- ・「一緒にやろう！」
- ・「やさしく触らないとダメだよ！」
- ・「いい考えたね！」
- ・「一緒に運ぼう！」



(3) 考察

友達同士の良さを認め合いながら、お互いに教え合ったり、共に感動を味わうことができるような、援助を行ったことで、仲間関係に広がりが見られた。また、協力したり、助け合って活動している様子を認め、その大切さを伝えていったことで、道具を譲り合う姿が見られたり、友達の良さを認めたりする発言が聞かれるようになった。これらのことから、他者受容や他者理解、思いやりや強調性などの、豊かな心が育まれたと考える。

IX 研究の成果と課題

1 成果

- (1) 砂や土に関する活動の年間指導計画を作成し、直接体験が多く持てるような活動を展開したことで、砂や土への興味・関心が高まり、親しむことができた。
- (2) 幼児が試行錯誤しながら活動できるように、計画的な環境構成を行ったことで、気づきや発見を通して、好奇心が高まり、探究して遊ぶ楽しさを味わうことができた。
- (3) 幼児が主体的に活動を展開し、仲間関係が深まるように、教師の援助を工夫したことで、様々な場面で発見や感動を友達同士で共有したり、葛藤する姿が見られた。自己抑制や思いやり、他者受容や優しさなどの、豊かな心を育むことができた。

2 課題

- (1) 砂や土に関する活動の年間指導計画の工夫・改善
- (2) 幼児の活動を見通した計画的な環境構成
- (3) 個に応じた援助の工夫

おわりに

幼児期は人格の土台を形成する大切な時期です。幼稚園は、地域や家庭において、自然との直接体験をもつ機会が少ない幼児に対して、直接体験活動を多く取り入れ、直接体験不足を補う役割を担っているといえます。「人生に必要な知恵はすべて幼稚園の砂場で学んだ」とあるように、幼児期に、多くの仲間と囲まれて、自然とかがわること、幼児にたくさんのお話を学ばせてくれることを感じることができました。また、幼児の創造力や感性の豊かさ、未知なる可能性を感じることもできました。半年間の研究の中で学んだ理論や実践をこれからの保育に生かしていき、さらに深めていきたいと思えます。

研究期間中、励ましご指導くださいました、浦添市教育委員会の高江洲弘美指導主事、浦添幼稚園の友利愛子先生、本研究所の宮城むつみ所長、石川博基係長、比嘉清喜指導主事に深く感謝申し上げます。職員の皆様にもお世話になりました。また、テーマ検討会等で様々な角度からご助言くださいました浦添市教育委員会の諸先生方にも心より感謝申し上げます。

最後に、研究の機会を与え支援してくださいました浦城幼稚園の池田博暁園長をはじめ、いつも温かく励ましてくださった諸先生方、半年間の研究を共に支えてくださった、研究員の先生方に感謝申し上げます。

《主な参考・引用文献》

- | | | | |
|---------|-------------------------------|---|------|
| ・文部省 | 『幼稚園教育要領解説』 | 文部省 | 1999 |
| ・柴崎正行 | 『新任保育者シリーズ②実践例でわかる援助のポイント100』 | フレーベル館 | 1994 |
| ・柴崎正行 | 『新任保育者シリーズ③実践例でわかる環境のポイント100』 | フレーベル館 | 1994 |
| ・森上史朗 他 | 『望ましい経験や活動シリーズ 第3巻 砂あそび・水あそび』 | チャイルド | 1977 |
| ・森上史朗 他 | 『新保育講座6 保育方法・指導法の研究』 | ミネルヴァ書房 | 2001 |
| ・西 健 他編 | 『実践シリーズー保育園・幼稚園4 土・砂・水・積木あそび』 | 水曜社 | 1989 |
| ・上原かをる | 『平成17年度 研究報告書』 | 那覇市立教育研究所 | 2006 |
| ・ | 『大辞泉』 | http://dic.yahoo.co.jp/ | |